

東京オリ・パラ「徳島すぎ」レガシーの創出について

1 事業概要

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会においては、「日本の木材活用リレー」プロジェクトにより、徳島県をはじめ、全国63の自治体から提供された木材を利用して「選手村ビレッジプラザ」を建設するとともに、施設の解体後は、提供した各自治体において再利用を図ることで、「東京大会のレガシー」として語り継ぐ取組を行っている。

今回、本県における「レガシー木材」の再利用について、

- ・提案① 「鳴門・大塚スポーツパーク」の内装木質化
- ・提案② 様々な施設で利用可能な木製ベンチの製作
- ・提案③ 自由提案による木製品の製作

の3つのテーマで、公募を実施し、次のとおり、事業者と活用方法を決定した。



選手村ビレッジプラザ

2 採択事業者

東京オリ・パラ「徳島すぎ」レガシー創出業務受託コンソーシアム
代表 環境デザインワークス（ほか5者）

3 提案内容（次頁パース図）

金物をできるだけ使用しない伝統工法を用い、本県の優れた木工技術を将来に伝えるとともに、メンテナンスも容易なサステイナブルな作品として提案

提案①鳴門・大塚スポーツパーク「ソイジョイ武道館」観客席

「徳島すぎ厚板」を座面に用いるとともに、着座の目安にスリット（隙間）を設け、ソーシャルディスタンスを確保するデザイン

提案②「アングル36」ベンチ

徳島県の都道府県番号である36の角度を付けることで、コミュニケーションをとりやすくし、複数を連結して向き合えるデザイン

提案③自由提案

・徳島すぎギャラリー

五角形のフォルムで東京五輪の理念「多様性と調和」を表現したデザイン

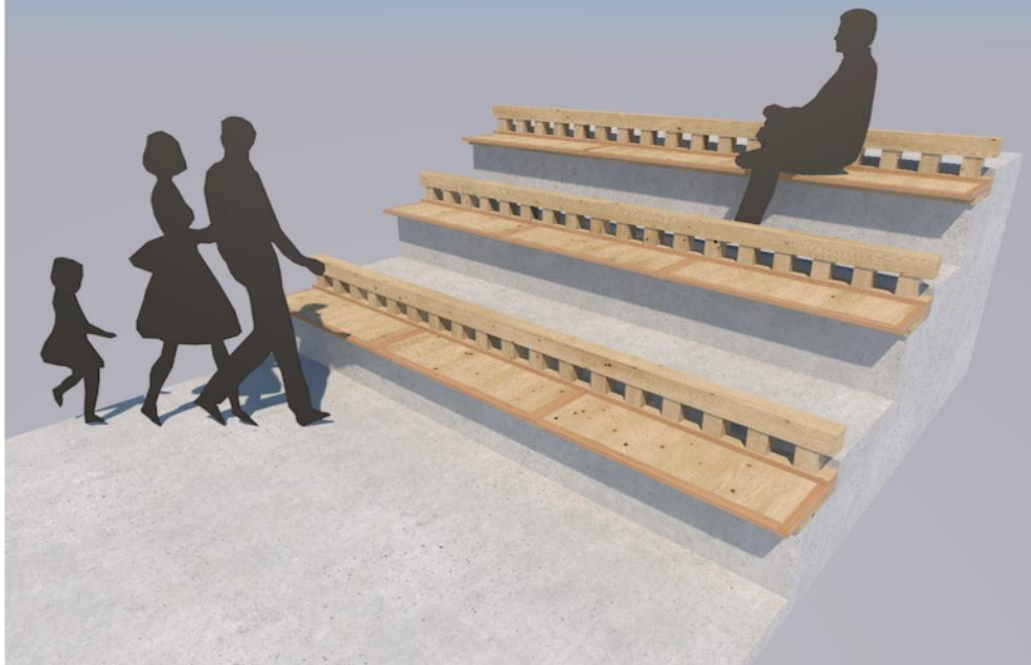
・AWAボックスシート

阿波の国をローマ字でアピールした「映える」デザイン

4 スケジュール

R4. 6月 契約・製作開始
10月 事業完了・設置

提案①「ソイジョイ武道館」観客席



提案②「アングル36」ベンチ



提案③「徳島すぎギャラリー」



提案③「AWAボックスシート」

